令和５年度　第３回　教育に関する事務の点検・評価委員会

日時：令和５年１２月２５日（月）１０時３０分～

場所：豊島区立西巣鴨小学校　多目的室

【次　第】

１　開　会

２　校内視察

３　議　事

（１）評価対象事業のヒアリング及び質疑応答

① 学校施設環境改善交付金対象事業

② 幼稚園運営について

３　閉　会

■ 資　料

資料１　：事業分析シート【学校施設環境改善交付金対象事業】

資料２　：事業分析シート【幼稚園運営について】

資料２（補足資料１）：アプローチスタートカリキュラム

資料２（補足資料２）：プレス資料（令和５年度第１回保幼小連絡会を開催）

資料２（補足資料３）：豊島区の保幼小連携を伝える通信誌

つながれ！Ho・Yo・Show！第１号

区立学校施設（小学校22校、中学校8校、幼稚園3園）

学校施設の老朽化対応、及び教育環境の質的な向上を図るため、計画的に改築・改修を行う
なお、年度ごとに改築・改修校が異なるため、事業費推移に計上した予算事業は、各年度以下

令和2年度 ： 改築（池一小）、改修（小学校・中学校大規模、小学校・中学校・幼稚園一般、体
令和3年度：改築（池一小）、改修（小学校・中学校大規模、小学校・中学校・幼稚園一般、体
令和4年度：改築（池一小）、改修（小学校・中学校大規模、小学校・中学校・幼稚園一般、体
令和5年度：改修（小学校・中学校大規模　小学校・中学校・幼稚園一般）

区立学校施設（小学校22校、中学校8校、幼稚園3園）
改築済の学校（小：5校、中：5校）
改築計画が公表されている学校：千川中学校（設計中）、要小学校（改築時期は最短で令和

9における位置付け	基本方針6．教師力の向上と魅力ある学校づくり		
学校施設環境改善交付金交付要綱 東京都公立学校屋内体育施設空調置支援事業 補助金交付要綱　他		事業開始年度	毎年度交付申請して

.改築
国庫補助金を活用し、池袋第一小学校の改築工事を実施した。（令和4年9月に開校）
活用メニュー：太陽光発電、不適格改築（校）、危険改築（校・屋体）、単独校調理場、学校カ

.改修
国庫補助金及び都補助金を活用し、以下の改修工事等を実施した。　※（　）内は活用補助
・西巣鴨小学校　外壁改修（防災機能強化、都補助）、教室改修（大規模改造（教育内容）
・巣鴨小学校　屋外階段・屋上防水改修　（防災機能強化、都補助）
・豊成小学校　外壁・屋上防水・空調改修（防災機能強化、大規模改造（空調）、都補助）
空調・教室改修（大規模改造（空調・教育内容））
・朝日小学校　空調修繕（大規模改造（空調）、都補助）
・朋有小学校　給食室、プール、トイレ改修（大規模改造（トイレ・空調）、都補助）
・池袋第三小学校　教室改修（大規模改造（教育内容））
・高南小学校　教室改修（大規模改造（教育内容））
・椎名町小学校　校庭改修（屋外教育環境）、照明改修（大規模改造（教育内容））
・高松小学校　特別教室改修（大規模改造（空調）
・駒込中学校　校庭改修（屋外教育環境）
・池袋中学校　校庭修繕（屋外教育環境）
・千登世橋中学校　校庭修繕（屋外教育環境）
・明豊中学校　トイレ修繕（大規模改造（トイレ）、都補助）

円〕		2年度	3年度	令和4年度		令和5年度	
		決算	決算	予算	決算	予算	増減（R4決算比）
	A	1,744,933	2,505,688	5,890,959	5,627,479	1,378,064	−4,249,415
	B	161,217	294,398	550,065	591,728	107,519	−484,209
料	B	0	0	0	0	0	0
他	B	511,446	0	5,020,871	70,448	1,042,757	972,309
	C＝A－B	1,072,270	2,211,290	—	4,965,303	227,788	−4,737,515

今後の方向性

果	令和4年度については、約6億円の補助金収入があった。 校庭や空調の修繕にも補助金を申請するなど、最大限の活用を図っている
題	補助対象となる改築・改修については最大限交付申請を行っているが、国 分により採択されない事業があり、補助金収入が得られないことがある。
の対応策 の方向性	交付対象となる改築・改修事業について、東京都と協議をしながら、引き続 申請を行っていく。

ことに、小学校への円滑な接続を支援する。

、5歳の幼児、保護者

〇幼稚園教育の提供
〇預かり保育の実施
〇保幼小連携の取り組み

園児数：66人(令和4年5月1日現在)
西巣鴨幼稚園：20人
池袋幼稚園：26人
南長崎幼稚園：20人

19における位置付け	基本方針1. 生きる力の土台となる就学前教育の充実		基本施策1. 生涯にわたる人格形成の基
学校教育法		事業開始年度	昭和45年度

幼稚園教育】
(1)発達の段階に応じた指導
発達の段階を「5歳児前期」「5歳児中期」「5歳児後期」「小学校入門期」に分けて、幼児期の終
てほしい10 の姿との関連を図りながら、指導を充実させている。今後はSDGs の取組とも関連付
浅さない幼稚園教育を推進する。
(2)豊島区アプローチ・スタートカリキュラム
平成30 年に小一プロブレム解消に向けた「豊島区アプローチ・スタートカリキュラム」を作成(平
た。区内小学校、幼稚園、保育所、地域型保育施設等が連携し、子供たちにとって滑らかな就
預かり保育】
教育時間終了後や長期休業期間中に、希望する在園児を対象に預かり保育を実施した。
時間：月曜日から金曜日の教育時間終了後から午後5 時まで
長期休業中は、午前9 時から午後5 時まで
保幼小連携教育】
〇義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の時期は、生涯に渡る学びや生活の基盤を
な時期である。池袋幼稚園ブロックでは公私、幼保の垣根を超えた交流を行い、幼保小の円滑
ている。
〇池袋小学校ブロックのモデル実施
池袋幼稚園と周辺の公私保育施設で保幼小連絡会を開催するとともに、保幼小連携通信誌「
Show」を区内全公立私立幼保園あて発行し、保幼小の取組を周知している。

円〕		2年度	3年度	令和4年度		令和5年度	
		決算	決算	予算	決算	予算	増減（R4決算比）
	A	58,409	87,959	96,155	91,539	93,129	1,590
金	B	7,171	3,749	3,560	4,146	6,520	2,374
料	B	905	601	881	551	659	108
他	B	4,476	4,533	4,892	4,818	4,335	−483
C＝A－B		45,857	79,076	86,822	82,024	81,615	−409

今後の方向性

果	○池袋小学校ブロックにおける保幼小連絡会では、幼稚園、保育園、小学の垣根を越えた職員間の交流も進み、子供を送り出す側と受け入れていくでいる。
題	○預かり保育事業の拡充などを行ってきたが、区立幼稚園児数の減少が続 ○一方、特別な支援を要する幼児の割合は高くなってきている。
の対応策 後の方向性	○共働き世帯、待機児童対策に伴う保育園の増加、就学前児童、幼稚園児教育の無償化、こども誰でも通園制度（仮称）の創設など、就学前児童を取きく変化している。 ○このような状況下において、保護者のニーズ及び豊島区の課題を踏まえの在り方について、区長部局と連携し検討をする必要がある。

時期		P4		P6		P8		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
豊かな感性と表現	思考	●身近な自然に触れて遊び、自然の美しさや不思議さを感じる ●砂、泥、水等の感触を楽しんだり物の仕組みや性質に気づき遊びに生かしていこうとする				●遊びに応じて、必要な表示を考えたり文字や数字を取り入れたりする		
言葉による伝え合い	言葉	●思ったことや経験したことをいろいろな方法で表現する ●園の仕事（誕生会の係等）を受けもち、大勢の前で発表する				●自分の考えや気持ち、困っていることを自分なりの言葉で話そうとする ●生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方がわかる		
	創造	●絵本や物語を通してイメージを膨らませて遊ぶ ●感じたことやイメージしたことを動きや音、描画等で表現して楽しむ				●物語や話の続きに興味をもち、クラスの友だちと楽しんで聞く ●自分たちが表現したいことを材料や方法を選び、工夫して作ることを楽しむ		
自然との関わり・生命尊重	協同	●互いに考えを出し合い、イメージを共通にして遊ぶ楽しさを味わう ●自分とは違う友だちの思いや考えを受け入れようとする				●友だちとのかかわりを通して互いのよさを分かり合い一緒に遊びを進めようとする		
	信頼	●クラス全体で楽しむゲームや遊びでは、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう				●クラスや友だちと一緒に目的に向かって活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう		
	規範	●みんなで気持ちよく生活するために必要なことを考え、工夫する				●みんなで気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いことの区別等を考えて行動する ●身近な人々に自分からも親しみの気持ちをもって接する		
	基本的な生活習慣	●自分たちの使った遊具や保育室をきれいにしたり、共有の場をみんなで片付けたりする ●衣服の着脱等、自分で気付いて調整する ●遊んだ後の片付けを自分から気付いて行う ●食べることを楽しみ、食べ物に関心をもつ				●一日の流れに大まかな見通しをもち友だちと声をかけ合って生活する ●必要性を感じて、園やクラスの共同・共有の物を片付ける ●自分の体に関心をもち、いろいろな食べ物を食べようとする		

時期		P10		P12			4月～7月
		11月	12月	1月	2月	3月	
豊かな感性と表現	思考	●順番や勝敗のある遊びを通して人数、物の数を数えたり、物の量を比較したりする		●物の性質や仕組みについて考え、積極的に遊びや生活に取り入れる			●様々な事象に興味をもち、発見する喜び喜びを味わう ●板書された書き言葉と補助的な絵や写したり答えたりする ●教科書の文を読んだり絵を見たりして解する ●新しい学校・教室・先生・友だちや学習とを伝え合い、気づきを発表し振り返る ●手遊び・歌遊び・リズム遊び等リズムや曲想を感じながら体を動かし、歌ったり合奏したりすることを楽しむ
言葉による伝え合い	言葉			●身近な人々に、自分から親しみの気持ちをもって接する ●経験したことや考えたことを自信をもって自分の言葉で伝える			
	創造			●絵本や物語を楽しむ中で文字に親しみ、読んだり書いたりすることに興味をもつ ●クラスの友達と声を合わせる心地よさや楽器の音色の美しさを感じながら歌や合奏を楽しむ			
自然との関わり・生命尊重	協同	●グループの友だちと共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさややり遂げた満足感を味わう		●共通の目的に向かって取り組む中で、みんなで協力し合うことの楽しさや責任感、達成感を感じる ●全体への指示や課題を自分のことと受け止め自信をもって行動する			●新しい友だちと生活したり遊んだりす め合い、信頼関係を築いていく ●教師、友だち、上級生等、地域の人等と 校の一員であると自覚して行動する ●係活動や当番活動を友だちと分担し 定感を味わう ●互いの考えや思いを言葉で伝え合い、 自分たちで問題を解決していこうとす ●規律を守ることで、気持ちよい生活が し、守る
	信頼			●周囲の人々とのかかわりの中で、自分が役に立つ喜びを感じる			
	規範			●クラスのみんなと心地よく過ごすために、自分なりに周囲の状況を判断し、行動する ●自分の所持品の準備や管理等に責任をもって生活する			
	基本的な生活習慣	もち、時間を意識しな活をする		●活動の区切りや時間を意識しながら生活する ●自分の所持品の準備や管理等に責任をもって生活する ●食事に関するきまりやマナーを守りながら、楽しく食べる			●交通規則や通学路を覚え、安全に登下 ●一日の流れを理解し、時間割に沿って生 ●自分の持ち物や共同・共有の物（給食 ボール等）の片付けの仕方を知り、丁寧 ●友だちと一緒に、好き嫌いなく楽しく給 ●いろいろな動きを経験して体

豊島区 TOSHIMA CITY | SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

報　道　発　表
豊島区広報課発
令和５年６月１６日

令和5年度　第1回　保幼小連絡会を開催

～幼稚園、保育園、小学校が公立・私立の垣根を越えて～

豊島区は、幼稚園・保育所・小学校の教職員が連携してよりよい保育・指導の在り方を検証し、幼児・児童を無理なく小学校へ接続していくことを目的に、令和５年６月15日(木曜)に、本年度第1回幼保小連絡会を池袋小学校にて開催しました。

本会は「豊島区教育ビジョン2019」に基づいて令和4年度より実施しているもので、池袋小学校の学区域にある公立・私立の保育園・幼稚園・小学校の保育士と教職員が、学期毎に一同に会してこれからの幼児教育・保育の発展に向けて情報共有を行っています。

第一部では、令和7年4月開設予定の池袋幼稚園と池袋第五保育園の分園型こども園開設等について、第二部では小学校への円滑な接続を図るため、令和5年度の各校園の保育及び他園との交流計画等の報告を行いました。また、武蔵野大学教育学部幼児教育学科の箕輪潤子教授からは、こども園開設についての助言や小学校への柔軟な接続についての指導をいただきました。

参加職員からは、「こども園の開設に向けて幼稚園と保育園の職員が、子供のために互いに情報交換をしながらよりよい教育を進めるアイデアを出していくことが大切だと感じた」「小学校への接続が昨年から加速してきて、入学した児童の様子からその変化を感じとることができる。職員間の交流も進んでおり子供を送り出す側と受け入れていく側の理解がすすんでいる」といったお声をいただきました。事業担当者は「池袋小学校のブロックで進めている幼児教育の実践を、他のブロックにも拡大し、豊島の未来の子につなげていきたい」と話しています。

■　保幼小連絡会概要
・日時：令和5年6月15日(木)　15時30分～16時45分
・参加対象校園・事務局
（1）　区立施設
　豊島区立池袋小学校、豊島区立池袋幼稚園、豊島区立池袋第五保育園
（2）　私立施設
　池袋いづみ幼稚園、明日葉保育園池袋園、わくわく保育園、いけぶくろこころ保育園
（3）　豊島区(事務局)
　教育委員会事務局・教育部教育施策推進担当課、指導課、子ども家庭部保育課
■　次回開催予定日　　令和5年11月中旬予定

情報交換の様子

箕輪潤子教授による研修会

【問い合わせ先】教育施策推進担当課長　後閑　公用携帯　電話：090-2047-6593

発行責任者：豊島区教育委員会事務局教育部庶務課教育施策推進担当課長 坂本大　　編集：同庶務課幼児教育推進Ｇ　　令和４年11月30日　創刊

生涯にわたる人格形成の基礎を培う

豊島区の幼児教育・保育

～豊島区の保幼小連携を伝える通信誌～

つながれ！ Ho・Yo・Show！

第１号

SDGs未来都市としま

豊島区 TOSHIMA CITY　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

持続可能な社会の担い手を育む幼児期の教育

豊島区教育委員会教育長　金子　智雄

幼児期の教育は、その後の生活や学習の基盤を確かなものとし、生涯にわたる学びと、資質・能力の向上に大きく影響すると言われています。本区では、秋田喜代美先生を委員長として、「豊島区の幼児教育のあり方検討委員会　最終報告書」を平成二十九年度に取りまとめました。検討内容については「教育ビジョン２０１９」などの行政計画に反映し、着実に幼児教育・保育を推進しているところです。

幼児期にふさわしい教育や保育を進めるためには、直接子どもと関わる保育園・幼稚園・小学校が、公私・施設類型を超えて、子ども同士や保育士・教職員の交流を通して連携し、就学前から小学校への円滑な接続を図る取組を進めることが求められます。

今年度より、池袋小学校の学区域にある公立・私立の保育園・幼稚園・小学校の保育士と教職員が一堂に会して情報を共有し、これからの幼児教育・保育の発展に向けて歩み出しています。

この取組がさらに広まり、本区における幼児期の教育が確かな一歩を踏み出し、豊島区の未来を担う子どもたちを育むことが出来ますよう祈念し、本通信誌発行の挨拶といたします。

幼児教育連携の必要性

幼稚園・保育園・認定こども園といった施設類型を問わず、また、公立・私立の枠を超えて、就学前教育・保育の質的向上と小学校教育との円滑な接続を図る必要があります。

運動会で未就学児と交流する池袋幼稚園児↑

↓ 池袋小学校１年生と池袋幼稚園年長組の交流
＜みらい館大明グランド・体育館＞

今年度から池袋小学校ブロックにおいて、モデル的に「保幼小連絡会」を開催し、保幼小連携の推進を図ります。

↑池袋幼稚園と池袋第五保育園合同の合唱〔敬老の集い〕
＜区民ひろば池袋主催　みらい館大明体育館＞9/15

←↓　**第２回保幼小連絡会　11月14日**　＜池袋小学校＞
豊島区で初めて開催された私立園・公立園と小学校の連絡会
武蔵野大学の箕輪潤子教授もオンラインで参加され、これからの保幼小の在り方についてご提言を頂きました。

保幼小連携通信に寄せて

池袋第五保育園長　野村 美和

年長ばら組では、友達と共感し目標への達成感・充実感を皆で共有することを年間目標としています。春はSDGs工作「ジャングルと海」、秋は「牧場・お菓子の家の迷路・桃太郎団子」を遊びから発展させ取り組みました。子どもたちは、それぞれ意見を出し合い、調べ、考えを深めつつ興味・関心を高めてお楽しみ会を開催しました。

運動会では、興味が広がり、夢中になった国旗作りや縄跳び等、励まし合い認め合い、自信につなげることができました。小学校から頂いた稲の栽培他、様々な食育活動を通し、直接体験につなげた保育も実践しています。縦割りの仲良しグループもあり、友達や仲間との関わりの中で自己調整（自己発揮や表現、自己抑制）する力も育っています。また、就学に安心感がもてるように、保護者会で池袋小学校長の講話を聴いたり、小学校やスキップの見学も予定したりしており、学びと育ちの連続性の共通理解を図ることを目指しています。

区民ひろば主催の「敬老の集い」では、池袋幼稚園と歌の合同発表や、みらい館大明祭りで「植樹体験」の交流をもち、地域の方の温かい見守りを実感しました。つながりを積み重ねることで「未来を切り拓くとしまの子」の豊かな心を育んでいきたいと思います。

↑ジャングルの工作 ＜池袋第五保育園＞

↑稲の脱穀 ＜池袋第五保育園＞

↑牧場とお菓子の家の取組 ＜池袋第五保育園＞

↑池袋幼稚園とどんぐりごま作り ＜池袋小＞

↑池袋小学校と池袋幼稚園のどんぐり拾い ＜池袋小＞

どんぐりから広がる連携の輪

豊島区立池袋小学校　主幹教諭　木内健太朗

本校の校庭には、どんぐりがなる木がたくさんあります。本校の子どもたちは、毎年、秋になるとどんぐり拾いが一番の楽しみです。これまで近隣の幼稚園や保育園の子どもたちも本校を訪れ、たくさん持ち帰ってくれていました。

本年度から、本校の１年生の子どもたちが訪れてくる様々な幼稚園の皆さんをお出迎えして、どんぐりがたくさんとれる場所を教えたり、一緒に活動したりすることを始めました。池袋幼稚園とは、生活科の授業に年長さんをお呼びして、どんぐりごまの製作を一緒に行いました。池袋幼稚園では、作品展で年長・年少さんともに、どんぐりを使った作品を作ってくださるという話を聞いています。連携の輪が広がっていることを実感しています。

また、池袋第五保育園の保護者会に本校校長冨本が出席させていただき、入学前の準備や心構えなどを話す機会を頂戴しました。この取組を、今後さらに広げていきたいと考えています。

子どもたちの交流、教職員の交流、そして保護者のつながりをこれまで以上に深くしていけるよう、関係者の皆様と力を合わせて参ります。

あとがき

「小学校にどうやってつなげていくのか不安があります」

これは、十一月十四日に行われた保幼小連絡会に参加して頂いた園長先生たちの声です。公設・私設を問わず卒園までに何をしたらよいのかが気になります。小学校入学まであと三ヶ月となりました。互いに情報を共有し不安を自信にかえて小学校への接続を図ります。

これから保幼小連携の取組をお知らせしつつ、豊島区の幼児期の教育をさらに充実させるよう努めて参ります。

〔次号は二月発行予定〕

【庶務課幼児教育推進担当】